

とび外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775003151		
法人名	有限会社さざなみ		
事業所名	グループホームさざなみ		
所在地	大阪府東大阪市加納2丁目12番7号		
自己評価作成日	平成27年7月19日	評価結果市町村受理日	平成27年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私どもさざなみでは、入居者様お一人おひとりの人格を尊重し自分らしく生活していただくことを目標としたケアを実践しています。家庭的な雰囲気作りをするために制服を使用せず各個人のエプロンをして接するようにしています。入浴については希望を受け入れた支援を行っています。食事は毎日近くのスーパーで季節の新鮮な食材を購入し、楽しんでいただけるよう工夫しています。また、入居者様には、食事や生活の様々なシーンで、お手伝いしていただいたり、出来る部分はお願ひし、生きがいを持って毎日を過ごしていただけるように関わっています。毎月の行事や、地域の行事に参加することによって地域の方や入居者様、職員や職員の家族も含めて人との触れ合いを大切にいつものお元気で過ごしていただけるよう支援している。毎月の職員会議・内部研修では、一人ひとりの意見を大切に問題点や良い点を共有したり、検討をして、サービスの質の向上をめざしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は東大市内でより早く、開所13年目のグループホームであり、同じ建物内には「さざなみグループ」の本部機能が併設されている。代表者はデイサービスの運営をしていく中でグループホームの必要性を感じ、5か所のグループホーム・ヘルパーステーション・ケアプランセンター・高齢者マンションと「さざなみアカデミー」の学校経営へと事業を展開している。若い施設長は笑顔が基本と語り、ベテラン職員との良好なコミュニケーションで、職員は働きやすく無理をしなくてよい、ずーっと此処で働きますと言ひ、開所時よりの利用者の穏やかな日々の暮らしの支になっていると伺った。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく・自由に・ありのままに」の理念の基職員は入居者様と接している。会議や日常の勤務の中で理念を共有・再確認しながら実践している。	法人の理念「1楽しく、自由に、ありのままに、2残された力で暮らす喜び、自信と誇りを3何時も同じ馴染みの環境、家庭的な雰囲気」を掲示し朝礼時に唱和し、会議でも確認し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に地域の方々と挨拶をしたり話をすることで、日常的な付き合いが出来るように努めている。自治会に入っており、地域の行事には出来る範囲で参加するようにしている。	自治会に加入し班長を受け持ち盆踊りや地域行事に参加し交流を図っている。中学校の体験学習の受け入れや、絵手紙・大正琴のボランティアの参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、地域の方と情報交換をし、イベントに参加したり認知症の方への理解をして頂くように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回行い地域包括支援センター、近隣グループホーム、入居者様、ご家族様のそれぞれの代表の方に参加して頂き、行事報告や事故、サービス等の様々な報告を行い、地域に開かれたサービスで質の向上に努めます。	2か月に1度地域包括支援センター・、家族・地域住民代表・近隣のグループホームの方々が参加して開催され、施設の現況報告や行事の案内を行い意見を聞き、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、何かあればすぐに協力できるように質問等があればすぐに連絡を取って協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者とは分からない事があればその都度聞き連携をはかり、協力体制を摂るようにしている。研修等の案内や、ホームページを活用して情報を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員を施設長とし。研修や職員会議等において、身体拘束の防止に向けた取り組みを行っている。	玄関は安全上施錠しているが、利用者の行動を把握して閉塞感のないケアを心がけている。施設長は身体拘束防止委員として担当を決め毎月研修を行い身体拘束しないケアの取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日入居者の日常の様子などをスタッフ同士が話し合い、虐待が無いように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修などで制度について学習し知識を深め、必要性が生じたときは社協などの関係機関と連携をとり、活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際に、重要事項や契約書の中身を入居者様や家族様に説明し、不安な点や疑問点を尋ねている。また質問しやすいような雰囲気作りを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や下駄箱の所に意見箱を置いて意見要望収集の機会を設けている。	家族の訪問時に意見を聞くようにしていて、利用者からは日々の暮らしのなかで意見を聞き、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりの意見を大切にしている。職員会議の場や個人の提案を聞く機会を持つことによって、小規模だからこそ全体に反映できる体制、運営を目指している。	管理者と職員は会議で意見を聞く機会を持ち、又何時でも意見を言える関係が保たれており、出された意見は皆で話し合い業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って仕事ができるような体制を目指し実践している。職員一人一人の希望に合った勤務体制や、給与の水準を作ることができるよう、つとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市町村の研修には積極的に参加している。又、施設内においても毎月テーマを決めて研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会の研修の参加や、圏域内の運営推進会議に互いに参加しあうことによって、サービスの質の向上に向けて取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の話をじっくりと聞き寄り添って受け止めるよう心掛けています。職員が働きかけ、新しい環境になじみ安心していただけるよう取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩みや不安な事一つひとつに耳を傾け、気軽に質問や訪問していただき納得していただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様の思いをくみ取りどのような支援が必要なのか見極めてサービスを行っている。職員間で意見交換しながら入居者様に必要な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は私達の先輩であることを心にとめ入居者様が暮らしやすい生活の場を考え、ともに支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が面会に来られた時は、本人様の居室で過ごしていただいている。互いに話をしたり一緒に本人について話し合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にはもちろん、ご友人、小さいご親戚の方にも来ていただきやすい場となるよう努めている。	家族や知人の訪問を受け今までの関係が継続出来る様支援をしている。馴染みのスーパーに買い物に出かけ、家族とお墓参りに行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることにより、利用者様の会話が弾むよう支援している。利用者様同士の関係を把握し、支えあい和み楽しんでいただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、いつでも相談に来ていただけるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様お一人おひとりの思いや意向をくみとりながら、ご本人様の希望にできる限り沿ってゆけるよう、外出などの支援を行っている。	申込時の事業所独自の入所希望状況表や、アセスメントシートで利用者の思いや意向を把握し、利用者に寄り添ったケアの支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様お一人おひとりの生活歴を、ご家族様やご本人様よりお聞きし、家事や日常の動作などで馴染みの暮らしをしていただけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様お一人おひとりの一日の過ごし方は様々であり、居室やフロアで自由に過ごされている。ご本人様の意思を尊重し強制はしない。気づいたことは職員間で、又は職員会議の場で現状について共有し検討する時間を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様家族様、職員の間で気づいたことをモニタリングを行い職員会議で検討して、介護計画を作成している。	本人や家族から意見を聞き介護計画を作成していて、担当職員の気づきや意見を聞きモニタリングをして、利用者の状態に添った介護計画の変更をしており、短期は6ヶ月長期1年で作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果を個人ごとに記録し、申し送りノート、生活記録に記入し、職員同士情報を共有している。変化問題等が発生した時は意見を出し合い対処方法などを検討し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時のニーズに応じて、他の社会資源と連携しサービスの多機能に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会や、ボランティア地域の中学校、自治会、同業者と協力しながら、地域の行事等にも積極的に参加し四季折々豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医がおられるときは、家族様施設が協力しすぐに医療が受けられるよう関係を築いている。又協力医療機関とも連携を取りながら、定期的に変化のあった時すぐに連絡を取り適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は利用者や家族で決められ、協力医療機関の内科の往診は2週間に1度・歯科は口腔ケアを含み毎週受ける事が出来る。従来のかかりつけへの通院は家族の支援で行われている。精神科・眼科の往診も受ける事ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、医師や看護師に日常生活の情報や気づきを伝え相談し、利用者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	出来るだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については入所時に説明しているが、具体的なことについては、なるべく早い時期に家族様と話し合いをしている。協力医療機関や看護師との連携によって、家族様に安心していただいている。	契約時に重度化や終末期の施設の対応を、本人や家族と話し合い説明して指針を作成している。状態が変化した場合には主治医や家族・看護師や関係者と連携しながら取り組む用意がある。看護師による職員の研修計画をたてている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修の際に急変時や事故発生時などの対策についての研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下と自施設のみと年2回行っている。地域の同業者の避難訓練等にも参加し、避難方法の新たな視点等ももらいながら、地域の方とも協力体制がとれるよう努めている。	地域のグループホームでの訓練に参加して、当事業所で対応を実践している。職員が近隣に在住しており地域の協力体制を構築するように努めている。水・カンパン等の備蓄品の用意がある。	消防署立ち会いの避難訓練などを年2回は実践され、運営推進会議等で近隣住民に訓練への参加を呼びかけ、災害時の対応を全職員で取り組まれることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの人格を尊重し、ありのままを受け止め、プライバシー損ねない言葉かけを行っている。また認知症高齢者とのコミュニケーションについての研修を行っている。また職員会議等で意見を出し合い個人の尊厳を守るための取り組みをしている。	利用者本位のケアが出来るよう、人格を尊重し何時も笑顔で接するように、接遇等の研修機会を設けている。職員間でお互いが注意し合える関係が保たれている。マニュアルや研修資料を休憩室に掲示し何時でも目に入るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り本人様の意見を引き出せるよう言葉を選んで働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのその人らしい暮らしができるように、毎日の個人の気持ちや体調の変化を踏まえて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれについてはお一人おひとりの思いを大切に楽しんでいただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの好みや力を活かし、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けを行っている。季節の行事やデザート作りは、希望を聞いたり調理に参加していただき、過程から楽しんでいただけるよう努めている。	管理栄養されたメニューを元に調理担当者が食材を購入し調理している。おやつを利用者と作り、毎月の誕生会をちらしずしやデコレーションケーキでお祝いをして、楽しい時間の提供をしている。利用者と職員はテーブルを囲み楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を毎日一人ひとり把握し、また食べやすいよう刻んだりとろみをつけるなどニーズに合わせた支援をしている。食事がとりにくい時は協力医療機関とも連携を取り栄養がとれるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きではお一人おひとりに合わせた声掛けや、介助を行っている。また、週一回の訪問歯科の検診で専門的なケアや口腔体操、治療などのニーズに合わせた対応を協力体制のもと行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりのプライバシーを守り、排泄の特徴を把握しながら、気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の排泄パターンを把握しトイレでの排泄の誘導を心がけ、夜間は声をかけて誘導し、ポータブルを利用したり、定時交換での排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するため毎日の排泄表を常に確認し、便秘にならないよう支援している。薬の使用はなるべく抑え、体を動かしたり食事で予防できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は日曜以外毎日行っている。なるべくお一人おひとりのタイミングに合わせて、楽しんで入浴していただけるよう支援している。	入浴は毎日可能であるが週2回を基本として、利用者の体調やその日の気分に合わせ、職員と会話を楽しみながら寛いで入浴できるよう支援し、拒否される人には足浴に変更して清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活習慣や希望、様子を見ながら、安心して休息したり眠れるよう配慮し、声掛けをし支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬の確実な支援と、症状の変化を確認し主治医との細やかな連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事や、誕生会、地域の行事等で生活が単調にならないように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様お一人おひとりの希望にできる限り合わせ、買い物や散歩等の外出支援を行っている。又季節の行事による外出も随時企画し、実行している。	毎日近くを散歩したり公園に出かけ外気に触れる機会を設けている。初詣やお花見等季節により外出計画をたてている。家族と外食や買い物に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人おひとりの希望を受け止めその方に応じた使い方ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	証明、壁紙などにやさしい雰囲気を取り入れ、心地よい共用空間を意識している。温度や湿度も配慮している。季節の飾りつけや草花等も楽しんでいただけるように工夫している。	木目調の壁は明るく・木目調のクッションフロアーには硬度の配慮がされており、キッチンを中心にテーブルを配置しており、ソファを所何処に置いて寛げる空間を作っている。大きな絵やがみの作品や折り紙を飾り季節を感じることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に安全に暮らしていただけるよう、ソファなどのセッティングを工夫したり、入居者様同士で楽しく会話ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるよう、本人の好みのものや、使い慣れたもの、写真のなどを置くなどして工夫している。	居室のドアは折戸で開閉しやすく、部屋には筆筒・鏡台・テーブル等使い慣れた家具が持ち込まれ、家族と映った写真を飾り、制作物を置いていたり居心地よく過ごせる部屋作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの能力、わかる力を活かし、引き出して少しでも自立してご本人様らしく暮らしていただけるように支援している。		